長洲町立長洲小学校　校長便り　No.６３

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年１月１６日(月)

雑感

１月も半分過ぎた。加齢のせいか時間の進み方が今まで以上に速く感じる。冬休みに入る前にはのんびりとテレビを見ながら過ごすことを考えていたのだが、結局毎日体を動かすか、仕事に追われる毎日だった。

冬休みに行ったことが２つある。１つ目は冬休み中に１００㎞以上歩くこと、２つめは今年１年の教育実践をまとめることだった。どちらも弱い自分に打ち克つことができなければ達成はできない。冬休み中に１００㎞達成するためには毎日７㎞ちょっと歩かなければならない。ということは毎日２時間弱それに費やすことになる。私は１日１０㎞×１０日で達成のプランを立て実行した。残念ながら目標達成はできなかった。言い訳となるが、家族のコロナ騒動で今年は５５㎞に留まった。２つめの教育実践のまとめも、書き始めたらスムーズに進み、冬休み中に終えることができた。これについては、目標をクリアしたという清々しさがあった。

目標達成のためにはタイムマネジメントが必要だったということは言うまでもない。今後もできるだけ、目標設定とゴールまでのプランニングをしていこうと思う。

卒業前雑感　～中学校とは①～

６年生はそろそろ中学校を意識する時期でしょうか。幾つかのデータをもとに、こうあるべきだと私が思う中学校像、生徒像を書いてみたいと思います。

私は中学校を、思春期を迎える繊細なイメージというか、気持ちの弱さを持った時代という風に捉えています。友人関係、先輩後輩、親子関係の変化、勉強、部活…。不安は、数え上げればきりがないのではないでしょうか。まず学習全般と生活リズムの関連について考えてみたいと思います。

大きく変わるのは部活等による生活の劇的な変化でしょう。私の場合、学習以外の時間は殆ど部活動につぎ込んでいました。友達といる時間がとても大切に感じられたからです。しかし、私の学習時間は小学校時代と比して激減しました。実際のところ、中学生になったからといって学習の時間を増やすということは物理的に無理です。それに反し、中学校で１学期に進む教科書のページ数は平均して１００ページ、暗記しなければならない事柄は、実に小学校の１．５倍に跳ね上がります。中学生、特に１年生の１、２学期は勉強の仕方によって、成績に大きな差が生じます。だからこそ、この時期に、短時間に集中して学習する習慣、毎日自主学習をする習慣を身に付けておくことが大切になってきます。５分の学習でも積み重なれば相当な時間になります。これを習慣化すると、３年生時には取り返すことのできない、大変な開きができてくる訳です。

結論として言えることは、予習復習の自主学習を生活時間の中で、自分なりにコントロールすることが大切であるということです。これが最も難しいことですが、これがやれる子は夢を掴むのです。

シリーズ「自分を語る」#６３

平成１２年度、この頃のナイトハイクは完全に軌道に乗った状態でした。玉名町小学校で初めて担任させて頂いた子供達の兄弟姉妹が学級に在籍していて、その保護者の皆さんが率先して準備のお手伝いをして頂き、苦労という苦労は殆ど無く、実働も大変スムーズでした。この年の学級は担任の私が言うのも変ですが、何事に対しても大変ポジティブな学級でした。そして困難も楽しみに変えるというような雰囲気もありました。まさに「お祭り学級」という感じです。夏のナイトハイクは大人のサポートを必要とする場面が無く、私達大人は安全面だけに配慮するだけでしたし、仲間同士の支え合いも機能していました。細々した問題は起きましたが、それに対しても「自浄作用」があったので、簡単な支援で問題解決にたどり着くことができていました。

その年のキャンプは前号に記述いたしました通り、社会教育施設を使うことになり、楽しい思い出を胸に２学期がスタートしました。２学期も何か思い出づくりをしたいということで、小代山登山、スケート、博物館見学…「思いつくものは全てやってみた。」という感じでした。当時の学年主任も「澤田君だから仕方ないねぇ。」という感じでＯＫして頂いた様でした。このような行事については詳細の記述はしませんが、子供達曰く、「６年生の時が一番楽しかった。」と言ってくれていますので、やっていたことに間違いは無かったと思います。

この年、私が一番印象に残った子供達のパフォーマンスは、運動会での学級対抗リレーです。練習の段階から大差をつけての１位をとっていたのですが、少しだけ不安なことがありました。毎回のようにバトンを落とすのです。しかも、同じ誰かが落としやすいではなく、いつも違う子が落とすのです。練習の段階から子供達は例えようのない危機感を持っていました。練習は何度やっても１位です。もともとポジティブ集団ですから、少々のことは笑いに変えるのですが、この件ばかりはそうはいかなかったようです。で、私の介入が始まりました。「バトン落として追い越されたら、また追い越せばよか。」苦し紛れの一言でしたが、危機感を持って頑張っている子供達には、それ位しか言えませんでした。私の心の中にも「まさか本番では落とさんやろ。」という慢心があったようです。

運動会当日、リレーなどはやはりやってみないと分からないものですね。何と、本番で３回もバトンを落としてしまいました。その度に観客席から悲鳴が聞こえ、それをかき消すように子供達の応援が聞こえてきました。このリレーで凄かったのは、３回バトンを落としたのに３回とも追い越して１位をキープしたことでした。しかし、そのままゴールするようなことはありませんでした。何せ３回落としているので余裕が無くなっていたのです。更には他学級にも速い子がいて、その子達がアンカーとして控えています。私の学級には飛び抜けて速い子がいませんでしたので、アンカー勝負になると勝ち目がありません。バトンは１位のままアンカーに渡されました。また差は２０ｍほどありました。観客は私達の１位を確信していたようですが、私はハラハラでした。勝負はゴール前だと思い、声をからして応援したことを思い出します。少しずつ差が縮まっていきます。ゴール前の直線に入りました。

「赤団と黄団のデッドヒートです、どちらもがんばれ!!」放送係の実況にも熱が入ります。私達は赤団です。その瞬間殆ど同時に決勝テープを切ったように見えました。決勝係の先生方が協議しています。結果は…!?　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）